

子ども・子育て環境の充実に関する保護者説明会

次 第

日時：令和5年5月13日（土）

9時30分～11時（予定）

場所：青木島小学校体育館

1 開 会

2 市長挨拶

3 説 明

4 質疑応答

5 閉 会

※終了後、アンケート用紙へのご意見、ご感想などの記入にご協力ください。

（出入口の専用の箱にご提出ください。）

長野市及び青木島小学校区の子ども・子育て環境の充実について ～長野市こども“のびのび”ビジョン、青木島こども未来プラン(案)～

はじめに

私は、市長公約として「子どもたちの夢を応援するまち」を掲げ、子育て支援の充実に取り組んできました。私自身が4人の子どもを育てる親であり、その感覚を大切にしたいと常々考えています。

昨年度は、どこに相談していいかわからなくても、ワンストップで相談に対応できる「子ども総合支援センター あのエっと」の設置や、放課後こども総合プランの充実のための「ながのこども財団」の設立、物価高騰対策として「ながの子育て世帯臨時特別給付金」などを実施してきました。

今年度は、不登校児童生徒の育ちと学びの場となる「教育支援センター SaSaLAND」の整備に向けた準備や、子どもの福祉医療制度の対象範囲を中学卒業までから18歳年度末までに拡大するよう進めてまいります。

さらに、子ども・子育て環境の充実を図るため、長野市全体を俯瞰した大きな視点として、子どもたちが日常的に伸び伸びと過ごしたり遊んだりできる場所や環境を整えていくことが必要であると考えています。

子どもが普段の生活を送る学校が、もっと伸び伸びと遊べたり、心地よい場所にならないか。家族で訪れる公園が、もっと楽しい場所にならないか。さらには、子どもが子どもとしてあるがままに大切にされ、自分を発揮できる環境をつくっていきたいと考えています。

これらを実現していくため、まず、子どもの権利をしっかりと守り、大人が支える環境をつくるため、子どもの権利を守る条例について、議会と協力して制定を目指していきます。

また、小学校においては、子どもや保護者の視点や学校職員の意見を取り入れながら、学校の環境や機能の充実を図ります。

子どもたちが伸び伸び、わくわく過ごせる場所として、市内にはいくつかの大きな公園がありますが、子どもやファミリーがもっと行ってみたいと思える場所、くつろげる場所になるよう、様々な仕掛けやアプローチを取り入れ、魅力を高めていきます。

これらを、子どもが伸び伸びと遊び、学び、育つための場づくりや環境づくりを目指すための「長野市こども“のびのび”ビジョン」としてお示しします。このビジョンのもと、市内全体で子育てしやすいまち、「健幸増進都市」につながるよう、暮らしに安らぎとうるおいを感じる長野市をつくってまいります。

その上で、青木島小学校の周辺については、小学校や保育園、児童センターの施設が集中する面では、登園・通学や送迎がしやすい環境にあります。一方で、放課後等も子どもが自由に遊べる環境の確保や、住宅街の狭い道路に送迎車両が多く入り込むなどの課題を抱えています。

このため、子どもの遊び場を早急に確保するとともに、子育て環境や住環境を一体的に改善していく必要があります。

そこで、子どもたちが放課後も校外に移動することなく、小学校で安全に伸び伸びと遊び、学べる環境を整えるため、小学校において十分なスペースを持った居室の確保とエアコン等設備の充実を図った上で、児童センター（1、2年生）を小学校の子どもプラザに統合し、併せて、学校に子どもたちの遊び場の機能を確保します。

また、現在は子どもプラザの保護者の駐車スペースが限られ、送迎車両が学校の校庭を通過して住宅地に入り込み、さらに児童センターの送迎車両もあり、下校児童の安全確保に課題があることから、校内の職員駐車場を移設することで、幹線道路だけで出入りできる送迎車両スペースを確保します。

青木島保育園については、老朽化が進んでおり、改修や移転新築を含めた検討を進め、保育環境の向上を図ります。また、隣接する青木島小学校も、長寿命化改修の時期を迎えており、通常であれば、校庭にプレハブ仮設校舎を新たに設置し、校庭が3年程度使えなくなるという課題があります。青木島保育園を移転新築する場合には、保育環境の充実につながるのと同時に、現園舎を小学校の仮設校舎として活用することで、小学校の長寿命化改修に伴う児童や学校の負担を減らすこともできるといった観点も含め、関係者と調整を図りながら進めます。

併せて、児童センターについては、地域の子育てサービスの充実を図る施設として活用を検討していきます。

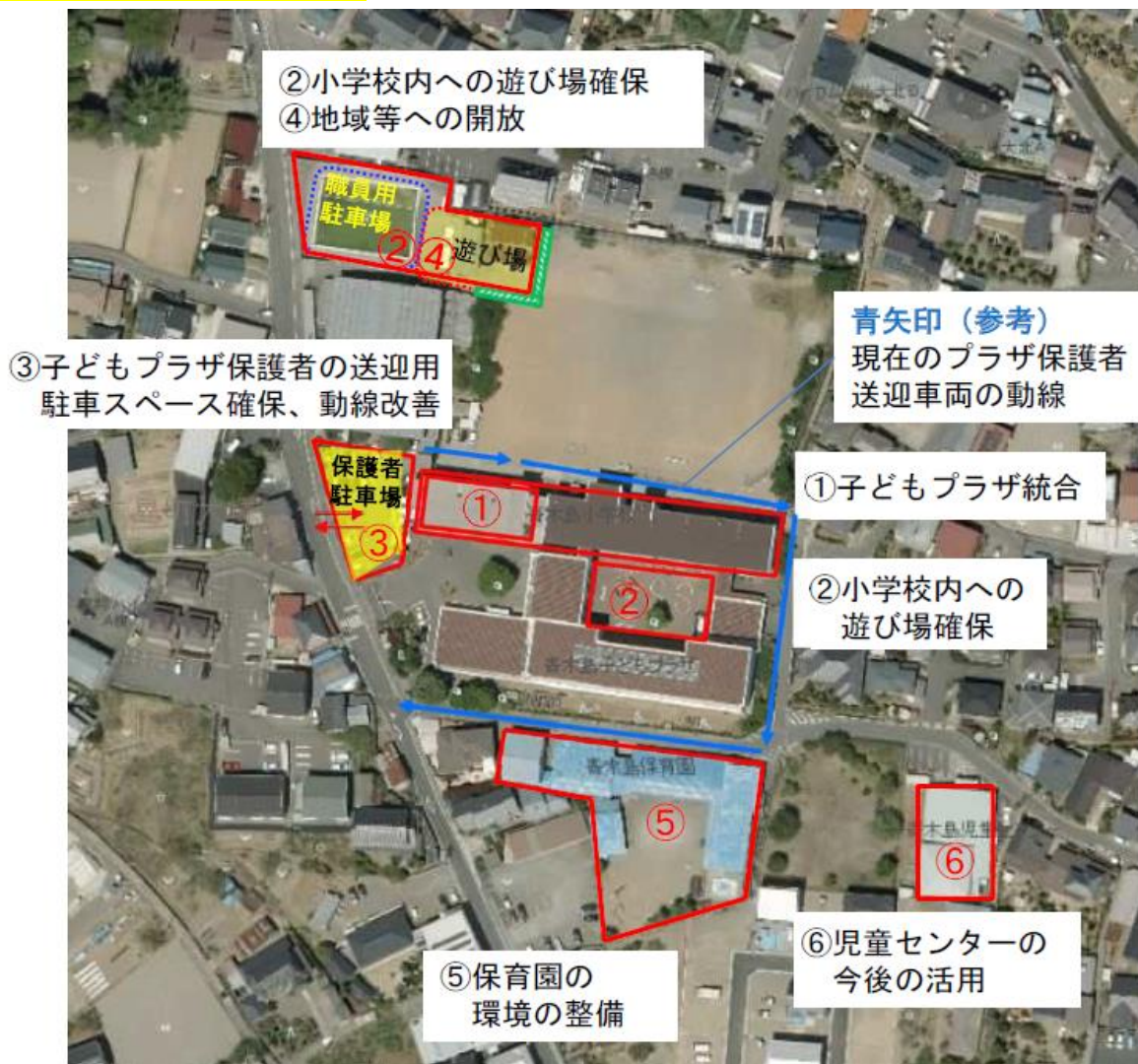
青木島小学校周辺におけるこれら諸課題を一体的・総合的に解決する「青木島こども未来プラン（案）」は、地域の皆様の御理解をいただくことが必要です。市としての案をお示ししますが、実施に当たっては、地区の役員や学校関係者、保護者などの関係者と十分に相談しながら、より良いものを目指してまいります。

子どもたちが安全で伸び伸びと過ごせ、より住みよい地域となるよう、また、青木島小学校周辺が新たな子育ての拠点となるよう進めてまいりたいと考えておりますので、御理解と御協力をお願いいたします。

令和5年5月

長野市長 荻原 健司

青木島こども未来プラン(案)



① 子どもプラザ統合

児童センターを、学校を活用した子どもプラザにできる限り早期に統合する。

～ 子どもたちが伸び伸びと遊べる環境づくり ～

⇒ 校庭・中庭・体育館も利用可能となる。新たな居室にエアコンを設置する。
北校舎の長寿命化改修（予定）後の新校舎にも「新子どもプラザ」設置。

② 小学校内への遊び場確保

子どもたちの遊び場としての機能を青木島小学校の敷地内に整備する。

⇒ プールの老朽化の進行から、新しい水泳学習への移行を積極的に検討する。
子どもたちの遊び場として広場機能、遊具設置。当面は中庭を開放。

③ 子どもプラザ保護者の送迎用駐車スペース確保、動線改善

保護者の送迎用駐車スペースの確保と動線改善により、児童の安全確保と周辺住環境の改善を図る。

⇒ 駐車場の慢性的な不足、車両が住宅地に入り込むなどの動線を改善する。

プール跡地の一部を職員用駐車場とし、正門前を子どもプラザ送迎用駐車場として確保。

④ 地域等への開放

地域に開かれた学校として、社会とのつながりをさらに深める仕組みを作る。

⇒ 地域の幼児等に開放する。植栽等によりエリアを仕切る。

⑤ 保育園の環境の整備

老朽化している青木島保育園の対応策を検討し、保育環境の向上を図る。

⇒ 園舎の移転新築を中心に検討する。小学校の長寿命化改修に伴う仮設校舎として利用。

⑥ 児童センターの今後の活用

子どもプラザに統合した場合の児童センターの活用を検討する。

⇒ 教育支援センターや、18歳未満の全ての子どもが利用できる児童館としての活用などを調査・検討する。